

景気動向調査の概要【平成30年1月～3月】

平成30年6月14日

富山商工会議所

「足踏み状態」が増加するなど、景気の回復基調は一時鈍化

景気の現状は、「回復している」(3.7%)、「緩やかに回復している」(40.7%)が前期比△22.3ポイントと大きく減少した。「足踏み状態」(44.4%)は前期比18.5ポイント増加し、「緩やかに後退している」(11.1%)は前期比7.4ポイント増加した。

また、前期との比較ではDIが△22.2(前期比△29.6ポイント)と悪化し、来期の見通しにおいてもDIは△7.4となるなど景気の回復基調は一時的に鈍化が感じられる結果となった。

<製造業>

- ◇一般機械関連／産業用ロボットや油圧機器などの需要増加で好調。
- ◇自動車関連／四輪エンジン部品が国内では軽自動車や小型車、海外では小型車の販売増加により好調が続いているが、海外向けの大型車はモデルチェンジやダウンサイジング化による受注減少で不調。
- ◇電気機械関連／人工衛星用電子部品がユーザーからの周期的な受注で好調となったが、ガステーブルのSiセンサーは、韓国向けのIH調理器との競合などから不調。自動車分野は電装化、IT化の影響で電子部品の需要が増加しているが、デジタル家電分野(液晶テレビ、AV機器、パソコンなど)は不調。
- ◇プラスチック関連／ベビー用品が新製品の投入効果で好調となったが、園芸用品は販路や商品の見直しなどの影響で不調。
- ◇医薬品関連／ジェネリック医薬品の生産は好調に推移した。また、関連分野である医薬品・化粧品添付文書用洋紙は医薬品需要が堅調なことに加え、海外観光客による化粧品需要の増加などインバウンド効果の影響などから好調。一方、配置用医薬品は従事者の減少等から販売が落ち込んでいるほか、原料となる生薬は高値が続いている。
- ◇紙加工／国内景気の回復基調や円安などの影響で輸出用機械向けの段ボール製品が好調。一方、天候不順や国内における住宅着工数の減少などから青果物や建材向けの段ボールは不調。また、包装資材は化粧品メーカーによる「MADE IN JAPAN」に対する国内生産への回帰の動きなどから、化粧品市場向けの売上増加が続く。

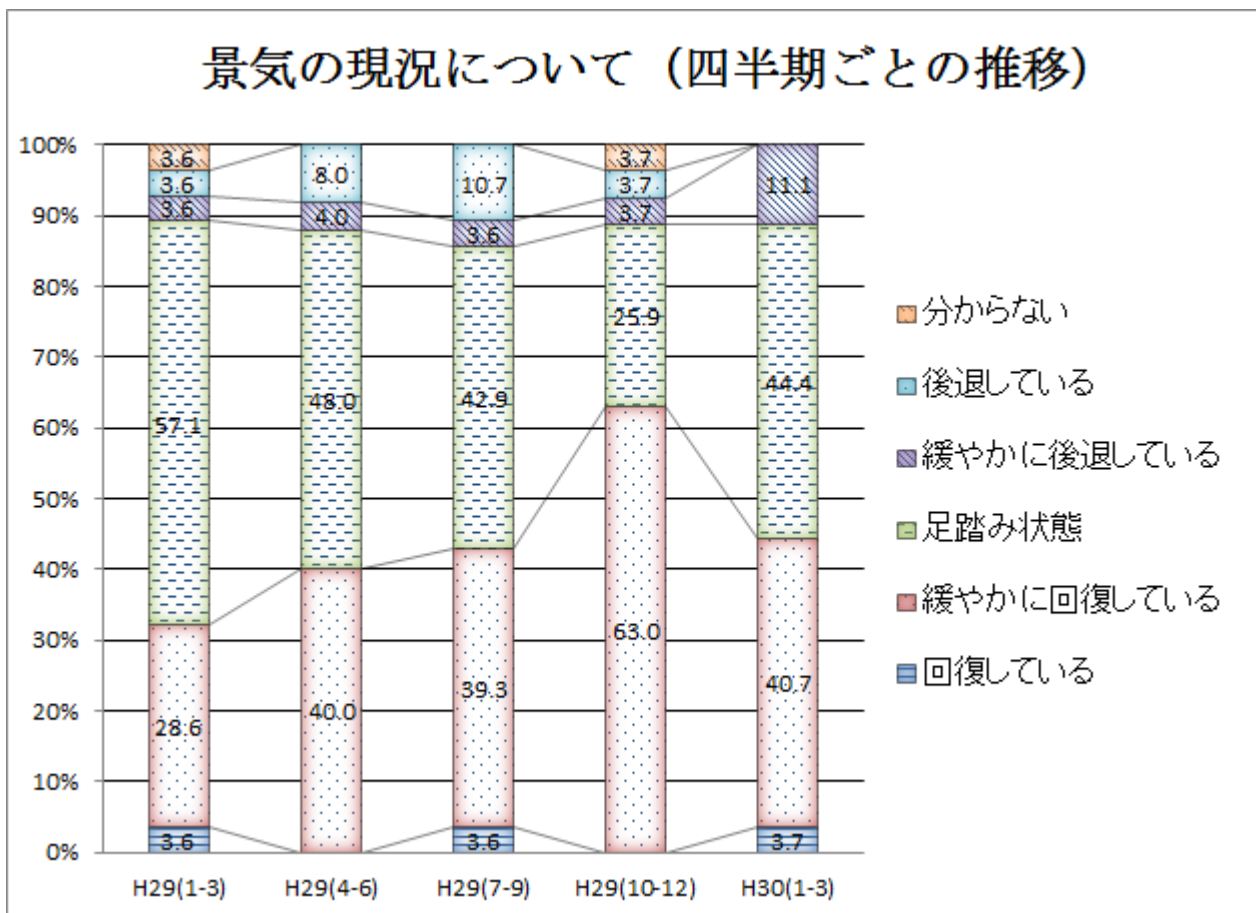
<非製造業>

- ◇小売業関連／百貨店では新ブランドの投入効果や企画催事の強化などで、化粧品をはじめ肉・野菜などの生鮮食品のほか、高価格品(美術・宝飾品など)の販売などが好調。一方、衣料品は大雪による影響と市場間の競争激化などから不調。また、郊外店などでは、気温低下の影響で靴や服飾、防寒衣料をはじめ住居関連品が好調となったが、メンズ衣料や日用雑貨、化粧品などは不調。
- ◇旅行関連／テロ等へのリスク管理意識の高まりで海外旅行は好調が続く一方、国内旅行はテーマパークなどの周年イベントの不足や天候不順などの影響で不調。
- ◇リース関連／機器の更新需要や補助金の利用などによる新たな設備投資が増加したことで、電算機関連機器や土木建築機械のリースが好調。一方、通信機器や医療機器、事務用機器のリースは他社との競争激化の影響などから不調。

<実施要領>

1. 調査実施期間 平成30年4月18日～4月27日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 29社
3. 調査方法 調査票を郵送しFAXで回収(一部、電話による聞き取り調査を実施)
4. 有効回答数 27社(回収率93.1%)

1. 景気の現況について（四半期ごとの推移）



2. 前期との比較と来期の見通し

(単位 %)

		29年 1-3月期	29年 4-6月期	29年 7-9月期	29年 10-12月期	30年 1-3月期
前期比	好転	25.0	19.2	25.0	37.0	14.8
	不変	42.9	57.7	46.4	33.3	48.1
	悪化	32.1	23.1	28.6	29.6	37.0
	D I	△ 7.1	△ 3.9	△ 3.6	7.4	△ 22.2
来期の見通し	好転	17.9	15.4	14.3	18.5	18.5
	不変	60.7	57.7	67.8	59.3	55.6
	悪化	21.4	26.9	17.9	22.2	25.9
	D I	△ 3.5	△ 11.5	△ 3.6	△ 3.7	△ 7.4

3. 各社(業界)の動向

製造業

◆一般機械

国内外での需要が増加し、産業用ロボットと油圧機器が好調に推移した。

◆電気機械

人工衛星用電子部品は、ユーザーの周期的な受注により好調となったが、ガステーブルのSiセンサーでは、韓国向けでIH調理器との競合で不調となっている。

また、自動車分野は、電装化、IT化が急速に進み、電子部品の需要が増加している一方で、デジタル家電分野(液晶テレビ・AV機器・パソコン等)は、日系のセットメーカーの低迷から不調が続いている。

◆輸送機械

四輪エンジン部品が、国内では軽自動車や小型車、海外では小型車の販売が好調となり受注が増加した一方、海外向けの大型車はモデルチェンジやダウンサイジング化による受注減少で不調となった。

◆プラスチック

ベビー用品が新製品の投入効果で好調となったが、園芸用品は販路や商品の見直しなどの影響で売上が減少し不調となった

◆医薬品

ジェネリック医薬品は、引き続き好調が続いている。一方、配置用医薬品では、配置従事者の減少等による販売が落ち込み、原料の生薬で高値が続いている。

◆紙加工・卸

段ボール製品は、国内景気の回復基調や円安の影響から輸出用機械関連が好調となったが、天候不順や国内における住宅着工数の減少などの影響で、青果物や建材関連向けの段ボールが不調となった。

包装資材では、化粧品メーカーによる「MADE IN JAPAN」に対する国内生産への回帰の動きなどから、化粧品市場向けの売上増加が続いている。

紙卸では、医薬品・化粧品添付文書用洋紙は医薬品の需要が堅調なことに加え、海外観光客によるインバウンド効果などの影響から好調となった。

非製造業

◆食料品卸売

国産果実の単価が高いことに加えて、新ブランドの投入などの影響などから輸入果実(バナナ、キウイ、グレープフルーツ)の需要が増加し、好調となった。一方、果菜類の野菜やキュウリ、トマトは、原油高を背景とした厳寒期の生産価格の高騰や数量の減少などが要因で、反動的に高値となったことで消費が低迷し不調となった。

◆大型小売店

<百貨店>

新ブランドの投入効果や企画催事の強化などにより、化粧品をはじめ肉・野菜などの生鮮食品のほか、高価格品(美術・宝飾品など)の販売なども好調となった。一方、衣料品は大雪による影響と市場間の競争激化などから不調となった。

<大型店>

富山市郊外の店舗は、気温の低下で生鮮食品やドライ食品、靴と服飾、防寒衣料、住居関連品が好調となった一方で、メンズ衣料や日用雑貨、化粧品などが不調となった。富山駅前の店舗では、消費トレンドの変化から生活雑貨と飲食料品が好調となった。

◆旅 行

海外テロ等へのリスク管理（危険情報の入手等）意識が高まり、海外旅行は好調が続いているが、国内旅行は、テーマパークなどの周年イベントの不足や天候不順などの影響で不調が続いている。

◆宿 泊

宿泊関係はインバウンドの利用の増加で引き続き好調が続く一方、ブライダル関係は婚姻数の低下により利用者が減少し、不調となった。

◆飲 食

ケータリングとテイクアウト商品はPR等の効果から好調となったが、来店客は、大雪等の天候不順の影響で不調となった。

◆リース

機器の更新に加えて補助金の利用による新規の設備導入が増加し、電算機関連機器や土木建築機械のリースが好調に推移した。一方、通信機器や医療機器、事務用機器のリースでは、他社との競争激化から不調が続いている。

◆情報関連

銀行や自治体などでのオンプレミス（自社運用）からの移行需要で、クラウドサービスが好調となった。一方、メガバンクの基幹システム統合や電力小売自由化に対応するシステム開発がピークアウトする状況になっている。

◆物流関連

PCB 輸送は処理の期限が迫り、医薬品関連では保管や運搬の案件が増加し好調となった。

一方、国際貨物（コンテナ船）で、韓国船の入船が減少し他港へ荷物が流れ、鉄道貨物では、大雪などの天候の影響を受け不調となった。

◆不動産関連

富山駅周辺の土地やテナントの需要が高まり好調となった一方、郊外の土地では、中心部への人口移動と人口減少で地価の下落傾向が続き不調となった。

◆建設工事

<富山県の公共工事の受注額>

	受注額（100万円）		前年 同月比(%)
	平成30年	平成29年	
1月	2,523	5,360	47.1
2月	4,795	6,087	78.8
3月	9,647	11,044	87.4

（東日本建設保証（株）富山支店調べ）

<富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数（戸）		前年 同月比(%)
	平成30年	平成29年	
1月	265	145	182.8
2月	136	198	68.7
3月	315	298	105.7

（富山県建築住宅課調べ）

◆新車販売

<県内の新規自動車登録台数（軽自動車は除く）>

	台数（台）		前年 同月比(%)
	平成30年	平成29年	
1月	1,995	2,062	96.8
2月	2,723	3,054	89.2
3月	5,241	5,431	96.5

（富山県自動車販売店協会調べ）

<軽自動車登録届出数>

	台数（台）		前年 同月比(%)
	平成30年	平成29年	
1月	1,627	1,487	109.4
2月	1,973	2,020	97.7
3月	3,127	3,060	102.2

（軽自動車検査協会富山事務所調べ）